

タイ語の可能表現について

田 中 寛

On the Expressions of Possibility in the Thai Language

Hiroshi Tanaka

The Thai language has two basic ways of expressing possibility. One is those using such auxiliaries as *dāj*, *pen*, *wāj*; the other being expressions using direction verbs like *đog*, *khāw*, *khŷn*, *loŋ*, or those using some verbs as complement of result.

The first group of expressions have some typical structures through which conditions of possibility are created. The second group of expressions, on the other hand, are characterized by their more analytic meaning. They are distinct, particularly in the forms of negation, in that a greater emphasis is placed on the result of an action, and that the background of the situations is implied. Some of these expressions are more rule-governed while some others are less so, and therefore more idiomatic.

In this paper, an attempt has been made to examine such features of these two types of expressions by contrasting Thai with Japanese and, in some cases, with Chinese. Reference has also been made to certain similar expressions of possibility.

目 次

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. はじめに. | 3. 補助的な動詞を用いた表現. |
| 2. 可能の助動詞を用いた表現. | 3-1. 方向動詞を用いた表現 |
| 2-1. dāj の用法 | 3-2. 二次的な動詞による表現 |
| 2-2. dāj を用いた構文 | 3-3. その他の慣用句的な表現 |
| 2-3. dāj の慣用句的な表現 | 3-4. 複合動詞と否定詞の位置 |
| 2-4. dāj の語用的な表現 | 4. その他の可能に準ずる表現. |
| 2-5. pen と wāj | 5. おわりに. |

1. はじめに.

言語表現にみられる「可能」の意味はその否定の「不能(不可能)」の意味をも広義に含めるものと考えられるが、そもそも「可能」とは動作の能力、種々の権利、余裕、実現性などを有することであったり、能力賦与や困難な事態の実現、許容などといった意味が指摘される。また語彙の性格によっては、「可能」の意味に自発(自然発生)的な意味が強く残されたものもあれば、相対的な性状規定の性格のものまであり、ときに一般的な能動的可能に対して、これらは受動的可能表現と呼ばれたりする。つまり、対象となる事象によって、その「可能」の意味分類は多様な様相を呈することになる。タイ語は語順と助辞とにより統率されるという中国語と同じ孤立語的性格をもつものであるが、「可能」表現もまた語彙的な意味が個々の具体的な用法として機能するという特徴が認められる。

タイ語の可能表現は大きく二種類に分けて考えることができる。一つは助動詞を本動詞の後に置いて用いる方法と、一つは方向動詞やある動詞(後項動詞、または二次的動詞)を連帯的な成分として本動詞の後に用いる表現である。前者については可能の状況を発生させるいくつかの特徴的な構

文のほか、語用的な表現もみられる。一方、後者では可能補語的な特徴から、より分析的な意味基準があらわれ、特に否定の形式において動作の結果性が明示される。また、文文化(形式化)のすすんだもののほかに個別的なものもあり、慣用句的な表現も少なくない。本稿では以上の点について、日本語、あるいは一部中国語との対照を試みつつ、基本的な考察を加えると同時に、その他の可能に準ずるいくつかの表現についてもふれてみることにする。

2. 可能の助動詞を用いた表現。

可能を表す助動詞は基本的に *dāj*, *pen*, *wāj* の三種類があり、いずれも動詞に後置される。これらは本来、動詞から発展したものと考えられるが、このうち最も一般的なものは *dāj* であり、*pen*, *wāj* については後にふれるように表現意図がある程度固定している。まず、*dāj* の用法についてみていくことにする。

2-1. *dāj* の用法

dāj は元来、動詞の「得る」という意味を含むものである。通常、動詞に後置されるが、前置されることも多く、その用法は多様を極める。まず、基本的な用法から見ていくと、*dāj* は一般的な可能の状況^{注) 2}をその背景に言及することなく広く表すことができる。

(1) a. *paj tookiaw dāj*
行く 東京 : 東京へ行くことができる

b. *phùud phaasǎa thaj dāj*
話す 語 タイ : タイ語を話すことができる

補語や目的語の成分は動詞と助動詞の間に置かれる。否定(不可能)の表現の場合は *dāj* の前に否定詞の *mâj* を置けばよい。

(2) *phùud phaasǎa thaj mâj dāj* : タイ語が話せない

また副詞、数量詞的等の修飾成分は助動詞の後に位置するのが普通である。

- (3) a. phûud phaasǎa thaj dâj khlǝŋ

流暢に：流暢にタイ語が話せる

- b. dÿym bia dâj lǎaj khùad

飲む ビール 幾 本：何本でもビールが飲める

araj (何), khraj (誰), thīnǎj (どこ)などの疑問詞が目的語の位置に来れば、その否定は全面否定を表す。

- (4) a. phûud araj mâj dâj：何も話せない

- b. khâw kâb khraj mâj dâj：誰とでも交われない

- c. paj thīnǎj kǝŋ mâj dâj：どこへも行けない

また、動作の継続・完結を含意するために、dâjの前に「～しておく」という意味の wáj が補助的に用いられることも多い。

- (5) a. rágsǎa bânmyaŋ wáj dâj càag tàaŋchǎad

守る 国 から 外国

：外国から国を守り通した

- b. tamrùad ta²khru²b tua phûurǎaj wáj dâj

巡査 捕える 身 犯人

：巡査は犯人をふんづかまえた

また dâj は付帯状況を表す副詞句の中においても現れる。

- (6) a. dooj rágsǎa mâj dâj

で 維持する：維持できなくて

- b. jàaŋ sǎa mâj dâj

ように 無くす：いやいやながら

- c. con klân mâj dâj

程 我慢する：我慢できないほど／我慢できなくなって

- d. thâw thīi cà mâag dâj

等しい 多い：できるだけ多く

「どうにか出来る」という蓋然性、可能性を表すのに動詞の前に phoo 「十

分な」をともなうことも多い。

(注) 3

(7) a. phoo cháj dáj : 何とか使える、いける

b. phoo duu dáj : 何とか見れる、まずまずのものだ

c. thaa mii araj thii phom phoo cà chúaj dáj, khoo háj bōōg
もし ある 何か ~の 僕 手伝う くださいさせる 言う
maa ná kh.

来る ね 丁寧詞

: 何か僕に手伝えることがあれば、遠慮なく言って来てください。

dáj が省略されて、phoo が可能の意味を含意することもある。

d. kha?tōōb léglég phoo khum fōn

小屋 小さな 防ぐ 雨

: 何とか雨露をしのげるほどの小さな小屋

また、ある能力を特別に備えているとか、外部的な条件の意味を強調したい場合、dáj とともに sāmāad が併用されることも多い。

(8) a. farəŋ khonnán sāmāad lēn tē? ta?krōō dáj

西洋人 その 可能だ 遊ぶ 蹴る タクロー

: その西洋人はタクロー (タイの「蹴鞠」) ができる

b. thəə sāmāad bankháb khwaamtÿyntēn wáj dáj

彼女 可能だ 抑える 興奮

: 彼女は興奮する気持ちを抑える 理性は持ち合わせていた

c. rōōŋŋaan nīi sāmāad phalīd rōōdjon dáj dyan la phan khan

工場 この 生産する 車 月に 千 台

: この工場は一カ月に千台の車が生産可能だ

否定表現の場合は sāmāad の前に否定詞を置けばよい。

d. thəə pùaj māj sāmāad cà maa dáj

彼女 病気だ できる 来る

: 彼女は病気で来られない

また、「~の力をもっている/いない」という言い方もよく使われる。

- e. māj mii khwaamsāamāad phoo thii cà khāw Culaa dāj
ある 力(能力) だけ ところの 入る チュラー
 :チュラー大に入るだけの力を持っていない

2-2. dāj を用いた構文

次に dāj を頻用する主な構文をいくつか見てみることにする。

A) 許可・禁止の表現

可能・不可能の表現は場面に応じて、許可(容認)や軽い禁止(制止)の意味を表すことができる。可能を個別的・意志的判断に起因するものと考えれば、こちらは一般状況的な判断に基づくものといえよう。

- (9) a. maa (kōo) dāj
来る (も) : 来てもよい

- b. maa māj dāj
来る : 来てはいけない

許可の場合は副助詞、並列助詞としての kōo 「も」をともなうことも多い。また、肯定・否定を繰り返す、並列構文として用いるときもある。

- (10) paj kōo dāj māj paj kōo dāj : 行っても行かなくてもいい
 plùug bāan kōo dāj plùug tōnphōnlamāaj kōo dāj
建てる 家 植える 果物の木
 : 家を建ててもいいし、果物の樹を植えてもいい

B) 義務の想定

- (11) māj maa māj dāj : 来ないといけない

これは二重否定を用いた表現で、本来義務を表す助動詞 tōng 「～なければならぬ」を用いた表現と比べた場合、前件が māj maa 「来ない」、後件が māj dāj 「できない」という複文構成になっており、義務的な状況を支える条件——帰結がより強く表される。dāj はここでは「不成立、不認定」という意味を表す。次の例も複文構造により一種の義務を表す。

(12) r̄ȳaŋ n̄i ca t̄ād̄s̄iŋ dooj m̄aj p̄haan th̄ui praʔchum m̄aj d̄aj
 件 この 決める で 通す で 会議

: この件は会議にかけないで決めることはできない

C) 義務の否定

「～なくてもいい」という言い方は義務を表す助動詞 t̄oŋ をともなうこと
 もあれば省略されることもある。また、k̄ōが習慣的に用いられる。

(13) m̄aj (t̄oŋ) maa k̄ō d̄aj
 来る も

: 来なくてもいい

これは前述の(10)のように肯定・否定の並列句としても多く現れる。

D) 推量・予測

推量表現は助動詞の khon (ca), àad (c̄a) を併用するのが普通である。

(14) àad (ca) m̄aj maa k̄ō d̄aj
 だろう 来る

: 来ないかも知れない

k̄ōd̄aj の前には将来起こるであろう事態が述べられ、そういうこともあり得るといふ予測、蓋然性を表している。この k̄ō d̄aj も例(2)、(3)、(4)の場合と同じく、むしろ語調を整えたり、補助的な意味となるため省略されることも多い。

E) 婉曲的な不可能表現

日本語で「(でき) そうもない／かねる／わけにはいかない」などといった表現に相当するものである。次の b. のように否定詞 m̄aj の位置が移動すれば、D) の否定の推量の意味に変わることには注意しなければならない。

(15) a. m̄aj àad c̄a pl̄ōj h̄aj d̄ēg ð̄og paj l̄en n̄ōg b̄aan d̄aj
 ない だろう させる 子供 出る 遊ぶ 外 家

: (危なくて) 子供を外で遊ばせておくわけにはいかない

b. àad c̄a pl̄ōj h̄aj d̄ēg ð̄og paj l̄en n̄ōg b̄aan m̄aj d̄aj

: 子供を外で遊ばせておかないだろう

F) 心的状況の強調

ʔòd 「我慢する」という動詞を否定文に用いた、日本語の「～ざるを得ない、～てたまらない」といった表現に相当する形式的な用法である。その意味の消極性、積極性の選択については前後の文脈から判断される。

- (16) a. ʔòd pha^{驚愕}ʔràadcaj māj dāj^心
 : 驚愕の念を禁じえない
- b. ʔòd thūi ca nýgthýŋ duannâa îm èeb māj dāj
 こと 思い出す 顔 幸福
 : 幸せそうな顔が思い出されてならない

G) 目的・指向

これは予測的な未来の目的に近づく「(できる)ように」という日本語に相当する表現で、関係代名詞である thūi を伴うことが多い。dāj は通常は動詞に前置し、結果的に「～し得る」という意味に解釈される。

- (17) a. nāj kan khāaŋ nāanâa nõj cà dāj mōŋ hēn chádchád^{注) 4}
 座る 互いに 方 前 少々 見える はっきり
 : はっきり見えるように前の方に座りましょう。

「ために」という接続語 phýa (thūi ca) を用いる場合も多い。

- b. khīan còdmāaj phýa thamhāj thaangbāan dāj diiʔòg dii caj kan
 書く 手紙 ため させる 家族 安心する 喜ぶ
 : 手紙を書いて家族を喜ばせてやりたい

H) 将来の可能の実現

近似未来において「～ことになる、し得る」といった事態発生が予測可能な場合、dāj は動詞に前置される。英語の could, would などの用法に近いものと考えられる。

- (18) a. phōm wāj wāa ság-wan-nýŋ khōŋ cà dāj paj jīpùn
 僕 希望する ~という いつか だろう 行く 日本
 : いつか日本へ行けることを願っています。

b. sīadaaj thūi ca māj dāj thamṅaan kàb phūag - raw

残念だ こと 仕事をする と 我々

：我々と仕事が出来なくなったことを残念に思います

I) 過去の事態発生

過去において新しい事態の変化や発生が認められた場合に、強調という意味も加えて dāj が動詞に前置して用いられることがある。
(注) 5

(19) a. phūucàdkaan dāj tēṅtāṅ khaṅákammakaan dooj mii naai

社長 作る 委員会 ~で ある 氏

sōmsàṅ pen praṭhaan

ソムサックとして 議長

：社長はソムサック氏を議長として委員会を発足させた（可能にした）

b. hàdthakam khǒṅ thaj rēəm tham naj khrǒbkhrua kḍon

手工芸 の タイ 始まる 行う 中 家庭 ます

léew cyṅ dāj khajāaj ḍog paj

~た で 拡大する ていく

：タイの手工芸はまず家庭内で始められ、後に広まっていった。

次は話し手の情報から推察し、その結果を確認するという言い方である。

c. mi nāa la cyṅ dāj phūud phasāa thaj kēṅ ná

どうりで で 話す 語 タイ 上手 ~ね

：それで（彼は）タイ語が上手に話せるんですね

また、dāj tēḗの形でしばしば動作の限定・継続を表すこともある。

d. eem dāj tēḗ rǒṅhāj hǒo

エム だけ 泣く (擬音)

：エムはただ泣きじゃくるばかりだった（ことしかできなかった）

J) 習慣, 能力の獲得

一定の時間の経過によって、自然とある技能が習得されるという結果を意味する。日本語で「(できる) ようになる」に相当する言い方である。
(注) 6

(20) dâj fỳg jàaŋ-nàg naj-thiisùd kǎw wāaj-nám dâj

練習する 一生懸命に ついに 泳ぐ

: 一生懸命練習してやっと泳げるようになった

K) 依頼表現

文頭において依頼・申し出を表す karunaa, khǎw などの助動詞に呼応する形で、文末に疑問の終助詞 máj とともに用いられる。

(21) karunaa khǎn thiỳuù trognii dâj máj kh.

ください 書く 住所 ここ (丁寧詞の略)

: ここに住所を書いてくださいませんか

(22) (phǎm) khǎw fàag nóod wáj nõj dâj máj kh.

(僕) させて 託す 伝言 おく 少々

: ご伝言をお願いしてもよろしいでしょうか

2-3. dâj の慣用句的な表現

以上、dâj を用いた代表的な構文のいくつかを見てきたが、一方、ある特定の動詞について慣用的なフレーズとして用いられるものもある。次に肯定表現、否定表現として用いられるものをいくつかみてみよう。

(23) duu dâj : 見れる, 見て一応の価値はあるように思える

fag dâj : 聞ける, 聞いて筋道が通っているように思える

cam dâj : 覚えている

sòob dâj : 試験に合格する

pen paj dâj : うまく行く

khâw kan dâj : うまくやって行ける

pen kan dâj : 一緒にやって行ける

cháj kaan dâj : ものになる, 使える

priab dâj kàb ~ : ~に譬えられる, ~のようだ

(24) hǎa thii priab mǎj / mi dâj : 無二の, 比肩するものがない

hǎa tua càb mǎj dâj : 匹敵する者がいない

sĩa māj dāj : そうするより仕方がない

hãa khãa mi dāj : 計り知れない

aw nêe māj dāj : 当てにならない、本気で取り組めない

hãa mi dāj : いいえ、そうではありません

ùad kèŋ māj dāj : 手も足も出ない

cháj māj dāj : 使いものにならない

súu māj dāj : 太刀打ちできぬ、かなわない、較べ物にならない

chúaj māj dāj : 仕方がない、どうにもできない

māj mii rôog dāj : 病気にかからない

wáj waŋ caj māj dāj : 頼り無い

jóg-ləəg māj dāj : 取り返しがつかない

jêeg càag kan māj dāj : 不可分の

liigliãŋ māj dāj : 不可避の

khàad sĩa māj dāj : 不可欠の

thon māj dāj : やりきれない

thon jùu nìŋ māj dāj : 居ても立ってもいられない

これらの中には次のように補文構造を受けるものもある。

(25) ~ kôo pen dāj : ~ こともありうる

~ kôo wãa māj dāj : ~ ことは何とも言えない

2-4. dāj の語用的な表現

dāj には可能の表現形式をもちながら、機能的に他の言語表達を意図する用法がいくつか観察される。

A) 反語表現

多くは文末に jàagraj 「どうやって」、mýaraj 「いつ」などの疑問詞をとまう。次の例ではどちらも否定的な事態を強調したものである。

(26) a. kin dāj jàagraj : どうやって食べられるんだ (食べられない)

- b. *cháj dáj mýaraj* : いつ使えるというんだ(使い物にならない)
 c. *mii gən phian níd diaw tham araj dáj*
 ある 金 たった 少し だけ する

: 少ししか金がないのに何ができるといんだ(何もできない)

B) 勧誘, 要求

この場合も *dáj* は主に文末に現れ、何か好意的に人に勧めたり、相手に期待をいだかせる言い方として用いられることがある。

- (27) a. *sām̀rèd nêε fān waan wáj dáj*
 成功する 必ず 期待する

: きっとうまくいく、期待して待っていてくれ

- b. *thāa mii ookàad paj jīpūn paj hāa phǒm taam thījūu ní*
 もし ある 機会 行く 日本 訪ねる 僕 従う 住所 この
dáj læj kh.
 語気詞

: もし、日本へ来る機会があれば、この住所のところに訪ねて来てください

C) 話し手の気持ち

次は通常的狀況では考えられない事実に対して、話し手の意外性・反発といった気持ちを表したものである。

- (28) a. *phūud dáj māj aaj pàag!*

: よくもそんなことが言えて恥ずかしくないものだ!

- b. *khon araj kōw māj rú khǎaj lùug taa damdam dáj thǎj khon*
 人 何 も 知る 売る 子 小さな まま 人

: まったくどんな人間なんだ、こんな小さな子供を売るなんて!

- c. *khon cajráaj khīan dáj khīan aw!*
 人 悪辣な ぶつ ぶつ (強調)

: こんなにひどくぶつなんて、何てひどい奴等なんだろう!

2 - 5. pen と wāj

pen と *wāj* の用法は、以上述べた *dáj* の用法と比べた場合、ある程度、

意味範囲が制約されるという特徴がある。次の例では質問の pen は dâj とほとんど区別なく用いられているが、答の dâj は pen に置き換えることはできない。

(29) wâaj-nám pen mâj? : 泳げますか

— phoo cà wâaj thŷŋ khòod hĩn trognón dâj
まあ 泳ぐ まで 丘 石 あそこ

: あそこの岩場ぐらいまでは泳げます

一般的には dâj が主観的にそなえ持つ能力、客観的条件、環境的支配下で成立するのに対して、pen の基本的な意味は学習や訓練・習慣の励行・継続の結果、習得された技能・能力を示す。

(30) khruu sôn nágrian hâj phimdĩid pen
教師 教える 生徒 させる タイプ できる

: 先生は生徒にタイプが速く打てるように教える

また、不可能の形は dâj と同じく〈動詞・mâj・pen〉となるが、完全に能力を否定したわけではなく、できることはできるがうまくはできないという状況をときに遠慮するという表現となる。したがって

(31) phũud thaj mâj pen : (習ったことがなくて) タイ語が話せない
 róŋ phlɛɛŋ mâj pen : (練習したことがなくて) 歌えない、音痴の
 wâaj-nám mâj pen : (" ") 泳げない、かなづちの
 dŷym lâw mâj pen : (飲みつけなくて) 酒が飲めない、下戸の

のような例に顕著にみられる。もともと mâj pen には

(32) mâj pen rŷaŋ : 話にならない

mâj pen pra?yòog : 役にたたない

mâj pen panhãa : 問題にならない

mâj pen rũub pen rɔj : 見る影もない、見るに耐えない

のような言い方がいくつかあり、概して「様にならない」といった意味を

もつ。従って pen を用いた可能・不可能の表現も、ある一定の水準・領域に達するかどうかという意味背景をもつ状況が呈示される。また、次のように〈mâj・pen・動詞〉の形で不可能を表す例もみられる。

(33) nɔɔn mâj pen sùg : おちおち眠れない

lèg klâa mâj pen sanim : さびない鋼鉄 (ステンレススチール)

次に wāj についてであるが、これはある種の経済的な条件で、または量的、体力的、物理的にみて何かを成すことができるか出来ないかを表す言い方である。この場合も不可能の表現が多く現れ、従って、本来は出来る能力を備えているにもかかわらず、外部的な制約、環境の支配下のもとで不可能な状況にあることを表す。

(34) a. n̄yaj mâag / klaj mâag læj dæɔn mâj wāj

疲れて 大変 遠い 大変 それで 歩く

: 大変疲れていて / 大変遠くて、歩くのが難儀だ

b. p̄hɛɛɯ mâag / im léɛw læj d̄yym mâj wāj

高価 大変 一杯 ~た それで 飲む

: 大変高価なので / もう一杯で、これ以上飲めない

c. n̄ag mâag / khon diaw jóg mâj wāj

重い 大変 一人 だけ 持ち上げる

: 大変重くて / 一人では、持ち上げられない

d. j̄aag paj roonriian con th̄eɛb cà rɔɔ cháw wanr̄unkh̄yn mâj

たい 行く 学校 ほどに ほとんど 待つ 朝 翌日
wāj

: 早く学校に行きたくて、朝が待ちきれなかった

なお、慣用句としては次のものがある。

?aw mâj wāj : 手に負えない, 手を焼く

?òd caj mâj wāj : 矢も盾もたまらない, 我慢できない

3. 補助的な動詞を用いた表現.

可能・不可能を表すもう一つ的手段として、方向動詞や二次的な動作の結果を表す動詞を用いた言い方とがある。まず方向動詞から見ていこう。

3-1. 方向動詞を用いた表現

タイ語の動詞の下位分類の一つとして方向動詞は意味的に、また構文的に大きな特徴をなすものである。方向動詞とは普通の動詞であったものがある種の方向性の意味を強調して転用されたもので、本来の動詞的な性格を強く残しているものや、抽象的な意味をもつものなどその種類もさまざまである。動詞に後置して補助的な意味をもつという点では中国語の「趨向動詞」、または「結果補語」に似た成分であると言える。方向動詞では ðɔŋ, loŋ, khâw, khÿn にそれぞれ次のような意味特徴がみられる。
注) 9

A) ðɔŋ

これはある動作が内部から外部に向かうという基本的な意味要素をもつが、まず具体的な意味用法から考えてみよう。次のいずれの例も ðɔŋ は自然にその動作がもたらされるという自発の意味に近い性格をもっている。

- (35) a. hǎajcaj ðɔŋ : 息が出る
 b. jêɛŋ ðɔŋ : 分離する
 c. phûud ðɔŋ : 物が言える
 d. pəəd ðɔŋ : 開く

これらの本動詞と方向動詞の間に否定詞の mǎj が入ると、「～ようとしても(ちゃんと)できない」という不可能の意味を表すことができる。
注) 10

- (36) a. hǎajcaj mǎj ðɔŋ : 息ができない
 b. jêɛŋ mǎj ðɔŋ : 分離できない
 c. jij mǎj ðɔŋ : (銃で)射っても射ち抜けない
 d. phûud mǎj ðɔŋ : 話そうとしても物が言えない
 e. láaŋ mǎj ðɔŋ : 洗っても(汚れが)とれない

ここで *phûud* 「話す」を例にとって *mâj dâj* を用いた否定の意味と比較してみるならば、*mâj dâj* の場合、「秘密だから、または口が不自由なので」という一般的な制約があるのに対して、*mâj ðog* の場合は「感極まって、または喉がつまるような気がして思うように（話せない）」といった心理的、生理的な制約をも表している。また、

(37) a. *hôn nîi kuncεε lɔŋ jùu pəəd mâj ðog*

部屋 この 鍵 ロックするいる 開く

: この部屋は鍵がかかっている、開かない／開けられない

b. *nýa nǎaw khiaw cyŋ mâj khôj ðog*

肉 硬い 噛む で あまり

: 肉が硬いのであまり噛み切れない

a. の例では「本来は開くはずのものが開かない」という特殊な事情を意味している。いくら努力を施しても動作が達成されないという意味では、日本語の「燃やしたが燃えなかった、閉めたが閉まらなかった」といった一見矛盾した言い方に近い。さらに次の例では、買い手が不在のために物が人手に移っていきにくいという意味で、期待したはずの事態が結果的に成立しなかった状況が表されている。

(38) *nýaŋcàg raakhaa pheeŋ bâan cyŋ khǎaj mâj ðog*

～ため 値段 高い 家 で 売る

: 値段が高いために家がなかなか売れない

さて、*ðog* のもう一つの意味要素は「分る」という認識である。可能表現において「理解する」という認識は大きな意味領域をもつものであるが、*ðog* もその結果の成立を補助する自発的な役割を担っている。

(39) a. *àan ðog* : 読んでわかる

b. *duu ðog* : 見て見分けがつく

c. *faŋ ðog* : 聞いて分る

d. *nýg ðog* : 想像する、思い出す

e. khíd òg : 考えつく, 考え出す

f. daw òg : 予測がつく

ここでは視覚、あるいは思考を表す動詞とともに用いられることが多い。ただ単に「読む」といっただけではどこまで「理解できたか」は定かではない。上記の例では「読んでその意味がとれる」その結果までを明示しているのである。こうした事情は疑問文においてより明確に現れる。

(40) nýg pháab-chiiwíd thii mâj mii méε-têε fajfáa cháj òg máj ?

思う 因 生活 ~ところの ある さえ 電気 使う

: 電気さえない生活が想像できるか

同じように否定表現ではその状況背景が具体的に示唆されることになる。

(41) a. àan mâj òg : 読んでも意味が分ない, 気持ちが見抜けない

b. fan mâj òg : 聞いても意味がわからない

c. duu mâj òg : 見ても見分けがつかない

d. nýg mâj òg : 想像もつかない, 思い出せない

e. khíd mâj òg : 考えつかない, 考え出せない

B) khâw

òg とは対称的に本動詞の表す動作が積極的な方向へ進行したり、またその結果ある動作が完全に結果まで到達した状態になるとか、外部から内部にある動作が及ぶといった意味要素をもつものである。

(42) a. rág khâw : 愛してしまう

b. hěn khâw : 見てしまう

c. phób khâw : 出くわす

d. phùug tid kan khâw : 結び合わせる

この場合も否定表現において不可能の意味が明示される。

(43) a. kin mâj khâw : 食べても腹のなかに入らない

b. pìd mâj khâw : 閉めてもきちんと閉まらない

- c. sàj mâj khâw : 入れてもちゃんと入り切らない
- d. thũu mâj khâw : (皮などを)こすっても切りこめない

C) khÿn

動作が下から上に向かう、または程度の増加といった意味要素をもつ。さらに「何かがそこから生じる」という抽象的な方向性をも意味する。

- (44) a. plùug khÿn : 生えてくる
- b. jóg khÿn : 持ち上げる
- c. bin khÿn : 飛び上がる
- d. thàaj rûub khÿn : 写真うつりがよい
- e. faŋ khÿn : 聞いて納得できる
- f. nýg khÿn : 思い出す
- g. khíd khÿn : 考えつく

この場合も否定表現によって不可能の意味が全面的に表される。この場合も然るべき条件・理由が介在することが必要である。

- (45) a. plùug mâj khÿn : 植えても生えてこない
- b. lúg mâj khÿn : 立とうとしても立ちあがれない
- c. jóg mâj khÿn : 持ちあげても持ち上がらない
- d. thǒon tua mâj khÿn : (悪事から)身を抜け出せない
- e. ŋoo hũa mâj khÿn : 頭が上がらない/起きられない
- f. hũu mâj khÿn : 頭が上がらない(逆らえない)
- g. faŋ mâj khÿn : 聞いても筋が通らない

ここでは思考動詞のほかにも、具体的な動作動詞にも多く用いられる。また、これらの中には次のように否定の慣用句となったものもある。

- (46) a. thian mâj khÿn : 言い合いをしても勝ち目がない
- b. khũn mâj khÿn : 養っても恩を感じない, 手伝っても意味がない

D). loj

これは khÿn と対称的に上から下へ動作が向かったり、または程度の減少を表す意味要素に加えて、行為がそこに落ち着くといった意味も含む。次のように否定の形式において多く用いられる。

- (47) a. klyyn mâj loj : 飲み込めない (喉が痛くて、遠慮して)
 b. kin mâj loj : (心配で) 食べても喉を通らない、勝算がない
 c. khâa mâj loj : 殺せない、手を下せない
 d. hãan mâj loj tua : 割り切れない

また、慣用句的な表現としては次のような例がある。

- (48) a. com mâj loj : 沈み切れぬ、落ちぶれても貧乏人らしく暮らせない
 b. gòb banchii mâj loj : 帳尻があわない
 c. pìd banchii mâj loj : 決算ができない
 d. pìd hìib mâj loj : 箱に蓋ができない、赤字になる

3-2. 二次的な動詞による表現

ある動作の結果を表す動詞が補語として用いられたものは、否定表現の場合、可能補語的にそれぞれ不可能の意味を具体的に表すことができる。次にそれらの動詞を観察する前に、タイ語の複合動詞の特徴について簡単にふれておくことにする。日本語で「射ち殺す」「溺れ死ぬ」といった言い方はタイ語では、一次的動作(起因)と二次的動作(結果)とに分け、

- (49) jìŋ (khon) taaj : (人を) 射って死なせる
 com (nám) taaj : (水に) 溺れて死ぬ

のように、「～して～にいたらしめる」、または「～して～になる」という言い方をする。次にあげる動詞もそれだけで意図(または手段・方法)と結果を内包し、可能相動詞として自発の意味をもつものである。

- (50) mɔɔŋ hěn : (見て) 見える
 faŋ dâj-jin : (聞いて) 聞こえる

hǎa cǎə : (探して) 見つかる

noon làb : (寝て) 眠る

これらは可能の意味を強めるために dǎj との併用も認められる。^{注) 11}

(51) mɔɔŋ hěn dǎj thûa paj : 至る所に目にする事ができる

そしてこれらの二つの動詞の間に否定詞が入ると不可能の意味を表す。

(52) mɔɔŋ mâj hěn : (見ても) 見えない

faŋ mâj dǎjjin : (聞いても) 聞こえない

hǎa mâj cǎə : (探しても) 見つからない

noon mâj làb : (寝ても) 眠れない

このなかでも特に文法化の進んだものをいくつか見てみることにしよう。

A) than

「間に合う」という意味の動詞が補助的に用いられると、時間との関係で、ある行為についていくことの可能・不可能を表すことができる。

(53) lâj (taam) than : 追いつく

rian than : 勉強についていける

rúu than : 相手の考えていることを見抜く

faŋ than : 話が聞きとれる

khíd than : 考えがついていく

否定表現は「～のに追いつけない」といった意味で用いられる。

(54) faŋ mâj than : 速すぎて聞きとれない

rian mâj than : 勉強について行けない

khíd mâj than : 考えがついて行けない

lǎb mâj than : よけ切れない

nǐi mâj than : 逃げ遅れる / 逃げそこなう

tɔɔn ráb mâj than : (客が多くて) 応接に暇がない

plian mâj than : 変化についてゆけない

phalid māj than : 生産が間に合わない

sài kha?nɛɛn māj than : いちいち評価しきれない

B) thùug

「正しい」という意味の thùug を用いて、ある行為が間違いなく出来るか出来ないかを表す言い方である。以下、否定表現のみ示す。

(55) paj māj thùug : 途中で道に迷って行けなくなる

bòog māj thùug : うまく言葉にならない

thàaj māj thùug : 正しく言い当てられない

khâad māj thùug : (将来の) 想像がつかない

tham tua māj thùug : 身の置きどころがない, バツが悪い

tâdsincaj māj thùug : 決心がつきかねる

jiŋ māj thùug : 射っても的に命中しない

tham araj māj thùug : 何も手につかない

pathibàd ton māj thùug : どう振る舞うべきか分らない

C) tòg, tɛɛg

「落ちる」、「割れる」という意味が抽象的な意味に転移したもので、否定表現では、いくら努力してもその結果に到達できない事態を表す。

(56) kɛɛ māj tòg : 複雑で解決できない

khíd māj tòg : 解決方法が考えつかない

ploŋ māj tòg : 雑念が多く悟り切れない

tii māj tɛɛg : 叩き壊せない、解釈できない

khób māj tɛɛg : 噛み切れない、解釈できない

D) thỹŋ

「達する」という意味要素をもち、否定表現では「ある行為がその目的とするところまでは及ばない」という意味を表す。

(57) jib māj thỹŋ : 手が届かない

rúu mâj thǎj : 知識が及ばない

khâw mâj thǎj : (目標などに) 達しない

khâad mâj thǎj : 計算外の

nýg mâj thǎj : 思いもよらない

jàŋ mâj thǎj : 計り知れない

E) tid

「くつつく」という意味要素をもち、否定表現では派生的に「ある行為がそこに静止、または固定できない」などの意味を表す。

(58) lég mâag con jib mâj tid : 掴めないほどに小さい

róncaj con nâŋ mâj tid : 気がせてじっと座っておれない

panhãa tàaŋtàaŋ pradan khâw maa con tâŋ tua mâj tid

: 次から次と問題が発生して応じきれない／身がもたない

khǒŋ thǎi faj mâj tid : 不燃物

thoo mâj tid : 電話をかけても通じない

thaa mâj tid : 塗っても色がつかない

F) jùu

「(そこに) じっとしている、動かない」という意味要素をもつもので特定の動詞に限り、否定表現では「不安定・不完全」の意味を表す。

(59) sog tua mâj jùu : じっと立ってられない、持ち応えられない

nǐŋ mâj jùu : 少しも静かにしていない

tâŋ sòd mâj jùu : 気を落ちつけることができない

jǐŋ mâj jùu : 射つには射っても射ち倒すことができない

G) mòd, còb, sèd

「尽きる、終わる」という意味要素をもつもので、不可能の意味を表す例としては次の言い方がある。

(60) kin mâj mòd : 食べきれない, 食べのこす

thâw mâj còb : 見物しても見つけない

(jaŋ) nâb mâj sèd : (まだ) 数えきれない (終わらない)

H) chád

「はっきりしている」という意味の形容詞であるが、不可能の意味を表す例としては次の言い方がある。

(61) faŋ mâj chád : はっきりと聞きとれない

mooŋ mâj chád : はっきり見えない

phûud mâj chád : はっきり話せない

thàaj mâj chád : 写真がはっきりとれない

I) tha?nàd

「便利な、都合のよい」という意味で不可能を表す例としては、

(62) kin mâj tha?nàd : (箸で、料理が遠くて) うまく食べられない

dəən mâj tha?nàd : (酒に酔って) うまく歩けない

hěn mâj tha?nàd : (位置が悪くて) はっきりと見えない

J) sa?nìd

「親しい、完全な」という意味で、

(63) hāaj sa?nìd (完全に治る)

mâj hēeŋ sa?nìd (完全に乾き切らない)

mooŋ nâa kan mâj sa?nìd (険しい目で見合う)

のように結果補語的に用いられるが、不可能を表す慣用句としては、

(64) faŋ mâj sa?nìd : 聞いてどうも変な感じがする、俯に落ちない

tii nâa mâj sa?nìd : 隠し切れずにボロを出す

K) khâad

「切る、欠ける」という意味要素をもち、不可能の意味を表す言い方としては次の例がある。

(65) tàd / hàn mâj khâad : 切っても切れない

但し、mâj khàad が本来の主動詞につくと「絶えず」という意味にもなる

(66) dâjjin sǎŋ theenám jùu mâj khàad

聞こえる 音 水道 いる 絶えず

: 水道の水の音が絶えず聞こえる

L) phôn、rōod

いずれも「免れる、助かる」といった意味をもち、不可能の意味を表す用法としては次の例がある。

(67) nǐ mâj phôn : 逃げ切れない、免れられない

sɛɛŋ mâj phôn : (車を) 追い越そうとして追い越せない

liig mâj phôn : (人に遭うのは) 避けられない

paj mâj rōod : 最後までやり通せない

以上、文法化(一般化)の進んだものをあげたが、その他に個別的に用いられる不可能を表す表現としては次のようなものがある。

(68) náb mâj thuan : 数えきれない

khūn mâj chǎŋ : 養っているのに慣れておとなしくならない(慣)

liáŋ mâj chǎŋ : 飼い馴らすことができない(慣)

kùu mâj kláb : 呼べど声が返らず、止めても聞く耳をもたない(慣)

chág nâa mâj thǎn lǎŋ : 収入の範囲内で生活できない(慣)

jùu mâj sùg : じっとしてられない(悪戯好きで、仕事好きで)

pid khwan faj mâj mǐd : 煙草の火は完全には覆えない、大変なことをして隠しきれない(慣)

lâj mâj con : いくら能力を試されても追い立てられても屈しない

jàb khūi kàj mâj fōo : 軟らかい鶏糞でさえ踏んでも踏みつぶせない、本気になって働かない(慣)

3-3. その他の慣用句的な表現

以上述べた否定の形式を並列的に並べて言う慣用的な言い方を次にいくつか見てみよう。いずれも格言的な意味で用いられる性格のものである。

注) 12

- (69) a. jiq mâj òog fan mâj khâw
 : 射っても当たらず、斬りつけても肉に食い込まない、不死身の
- b. klyyn mâj khâw khâaj mâj òog
 : 飲み込むこともできず吐き出すこともできない、進退がきわまる
- c. phúud mâj òog bòog mâj thùug
 : 口には出せず、また言えても正確に表現できない、判断に苦しむ
- d. càb mâj dâj lâj mâj than
 : いくら捕まえようとしてもうまく逃げのびる、言い逃れがうまい
- e. tòg nám mâj lâj tòg faj mâj mâj
 : 水に落ちてても流されず火に落ちてても焼けない、善人は必ず助かる
- f. sÿy kin mâj mòd khòd kin mâj naan
 : 正直者は食うに事欠かないが、嘘つきは長くは食っていけない
- g. khâa mâj taaj khâaj mâj khàad, khâa keeŋ mâj loŋ
 : 殺すに殺しきれず売るに売りとばせない、殺してスープにするに忍びない

3-4. 複合動詞と否定詞の位置

次に二つの動詞成分における、否定詞の有無とその位置をめぐる問題にふれてみることにしたい。これまで、二次的な動詞(後項動詞)と本動詞(前項動詞)との間に置かれた否定詞は、その全体を不可能の意味として表すことをみてきたが、常に否定形が成立するとは限らない。例えば、

- (70) a. khâa mâj taaj: 殺しても死なない
 b. *jiq mâj taaj: 射っても死なない

を比べた場合、b. が不適格であるのは恐らく khâa (殺す) と jiq (射つ) という動詞の持つ意味の結果性の違いによるものと思われる。「殺す」ことは手段であり、「死」と直接的な帰結の関係を含意するが、「射つ」の場合はそうとは限らない。b. は次のように補助的な語 (~léew tēe yaŋ~)

「～たが、まだ～」をともなって言わなければならない。

b. jɨŋ léəw tɛɛ jaŋ mâj taaj : 射ったがまだ死なない

複合動詞を構成する前項動詞と後項動詞との関係は、以上みてきた限り、

I 類：動詞（被修飾要素）・方向動詞（修飾要素）

II 類：動詞（修飾要素）・二次的／補助的な動詞（被修飾要素）

のように分類されよう。I 類の場合、後項動詞は抽象的な意味であるが、

II 類の場合は二つの行為・作用の時間的な前後関係が前項・後項の関係を規定している。意味の中心を成すのは I 類では前項動詞であり、II 類では後項動詞と考えることができよう。

一方、これもある動詞に限って言えば、否定詞の位置が移動することによって意味の変化が認められる。例えば、

(71) a. nɔɔn mâj làb : 眠れない（結果）

b. mâj nɔɔn làb : 眠らないでおく（意志）

のように a. の場合の否定の領域は làb（眠る）に及ぶが、b. では nɔɔn làb（熟睡する）全体にかかり、その否定を表すわけであるから、意志的な意味となり、日本語の「（眠ら）ないでおく」という行為に相当する。つまり不可能の意味とは別の事態が表わされる。次の例も同様である。

(72) a. sɔɔb mâj tòg : 試験を受けても落ちない（結果）

b. mâj sɔɔb tòg : 試験に落ちないようにする（意志）

とは言え、このような否定詞の移動が、あとの本動詞の表す動作の意志性によっては補助的な動詞との間に一般的に適用されるわけではない。

二次的な動詞成分が可能・不可能を表すという用法が、助動詞を用いた表現と並行して、歴史的にいつから頻用され始めたのかは定かではない。その類似性から中国語の影響も大いに考えられるところであるが、その種類もまだ今のところ調査が不十分で、形式化のすすんだものと個別的名ものとの判定も明らかではない。ただ、慣用度の高いものほど、本来は複文

構成であったものが、二次的な動作行為が省略されて、その形式的な要素だけが残ったものではないかということは推測される。以下、あたかも意味上は一つの文節を成すかのように二つの動詞が連動して、不可能の意味を含意する連語的な表現となった例をあげてみよう。hǎajなどはその形式化がすすんだものと考えられる。

(73) rágsǎa mǎj hǎaj : 治してもよくなる、治らない

thūu jàapraj klin kōw mǎj hǎaj : いくら擦っても匂いがとれない

thūu thǎwraj kōw mǎj saʔàad : いくら拭いてもきれいにならない

faŋ mǎj rúu r̄yaf̄ : 聞いてもさっぱり分らない

phúud mǎj sǎmr̄èd : 言ってもうまくいかない

khōwŋ jaŋ maa mǎi khrób : 品物がまだ揃っていない

mii mǎj tr̄yŋ : (あつて) 尽きない、いくらでもある

kin mǎj im : 食べても腹いっぱいにならない

4. その他の可能に準ずる表現

可能・不可能を含意する表現は、これまで述べた以外にもいくつか観察される。直接的な表現を避け、いくぶん婉曲的な意味をもつものが多い。

A) tham hǎj

広く日本語の「～させる」に相当するところの使役表現 tham hǎj を用いた文は、結果的にはその恩恵によって新しい状況を発生せしめるという点で、可能の状況を含意するものである。

(74) a. kaan-s̄ygsǎa thamhǎj khon chalàad

教育 ~にする 人 賢い

: 教育は人を賢くする

b. kaan-rian phaasǎa thaj thamhǎj phōm khǎwcaj

勉強 語 タイ ~にする 僕 分る

wádthanatham thaj dii kh̄yn

文化 タイ いい なる

：タイ語を勉強したおかげでタイの文化がもっと分るようになった

B) 方法／時間／機会 etc. ～がある、ない

(hǒn) thaaj 「方法」, ookàad 「機会」, sǐd 「資格」などの抽象名詞を用いて、その有無に言及して可能・不可能の意味を間接的に表すことができる。dâj が補文に用いられる場合もある。

(75) a. mii amnâad sýy khǒŋkhâaŋ sũŋ : 比較的購買力がある

b. mii wíthii pɔɔn kan aw wáj kɔɔn

：前もって予防する方法がある

c. mii ookàad sadɛɛŋ khwaamkhídhěn dâj

表明する 意見

：意見を表明する機会がある

(76) a. mâj mii thaaj fyyn tua : 身の持ち直しようがない

b. mâj mii thaaj thii cà nǔi : 逃げ出す術がない

c. mâj mii kamləŋ ɲən phɔɔ thii cà mii ród

：車を持つだけのゆとりがない

d. mâj mii sǐd thii ca ríag tua eɛŋ wâa pen jǐŋ sǎao dâaj ləəj

ある 資格 ところの 称す 自分自身 というである 若い女性 全く

：自分を若い女性だと称する資格はない

wan 「日」という語を使って「～ことはない」の意味を表すことがある。

(77) a. mâj mii wan com nám taaj : (驚鳥なら) 溺れることはない

b. mâj mii wan thii cà salàd-thíŋ sǎa dâj

：(貧乏を) 捨て去ることのできる日は(永遠に) なかった

そのほかにも mâj mii 「～がない」を使った不可能を表す言い方として、

(78) a. mâj mii ɲən sýy : 買うお金がない (お金がなくて買えない)

b. mâj mii khraj fyyn duanchataa dâj

：だれも運命に逆らうことはできない

のような例がみられる。

C) khǒo hāj

khǒo hāj を用いた「～ように～する」という願望・祈願を表す文にも可能の意味が認められる。

- (79) khǒo uajphon hāj khun jamada dǎen thaag klàb jīipùn dooj
祈る さん 山田 旅行する 帰る 日本 で
 sawàdiphâab.
無事

: 山田さんが無事に日本へ帰られることをお祈りします

D) phróom (thīi ca)

phróom は主文に現れた場合、「以下の準備ができています」という意味を表す。dāj がなくても可能の意味が含まれる。

- (80) a. phróom thīi ca sīa salà dāj thúg - mýa
犠牲になる 常に

: 常に身を捨てる用意をおこたらない

- b. kháv jag māj phróom thīi cà paj ñaan

: 彼はまだパーティーに行く支度ができていない

文中で用いられると、目的にかなうように前もって準備しておくという意味で、phróom 以下の文にはやはり可能の意味が現れる。

- (81) càd khǒog wáj hāj phróom thīi cà khǎaj tǒon - chávtrúu wansǎw
抜配する ておく 売る 頃 朝はやく 土曜日

: 土曜日の朝はやく商売ができるようにしておく

- (82) tamrùad ñaan kàj-pyyn phróom thīi cà lan kha?sun
警官 引く 撃鉄 発砲する

: 警官はいつでも撃てるように銃の撃鉄を引いた

E) māj klâa

klâa は「勇敢な、敢えて～する」という動詞のほかに、否定詞を前置し

て「～ことがうまくできない、億劫だ」という消極的な意味を表す。mâj klâa は文頭にも文末にも現れる。

- (83) mâj klâa cà ɲeen nâa khÿn mɔ̃ɔŋ duu
上げる 顔 上へ 見る

: 顔を上げて見る勇氣はなかった

- (84) cà lúg khÿn wÿŋ taam klàb paj kɔ̃ɔ mâj klâa
立つ 心 走る 帰る

: 立ち上がって走って帰る勇氣はなかった

F) ɲâaj、jâag

ことの難易を表す文も、ある意味では可能・不可能を含意する表現とみなされてよい。日本語の「～やすい／にくい」はタイ語では次のように表される。通常 dâj を併用するが、省略されることもある。

- (85) an wâa cìdcaj khɔ̃ɔŋ phúu-chaaj nán plianplæŋ dâj ɲâaj
ものという 心 の 男性 それ 変わる

: 男心というものは移り気なものだ

- (86) khloong níi mâj chàj cà láaŋ ðɔŋ dâj ɲâaj-ɲâaj
泥 この ではない 洗う とれる

: この泥は簡単には洗い落とすことはできない

- (87) aʔlaj nán hǎa sýy dâj jâag
部品 その 手に入る

: その部品は手に入りにくい

- (88) náb wâa hǎa duu dâj jâag naj myaŋ thaj
～と見なす 見る で 国 タイ

: (この花は) タイでもめったに見られません

次の jâag thîi という言い方は翻訳的であり、あまり一般的ではない。

- (89) jâag thîi cà chùd ca thɔ̃ɔŋ
引く 抜く

: 引き去りがたく、抜き去りがたい

また、ɲâaj の外に sabaaj、khlɔ̃ɔŋ なども用いられる。

- (90) sǎam sabaaj : 着やすい / jùu sabaaj : 住みやすい

- (91) pàagkaa dâam nîi khīan khlōng dii / khīan māj khlōng
 ペン 類別詞 この 書く なめらかな

: このペンは書きやすい / 書きにくい

G) lya thii ~

本来「残る」という意味や程度の過剰を表す lya が動詞に前置した場合、不可能の意味を表すことがある。dāj と併用されることもある。

- (92) lya khen : 手の施しようがない / lya ráb : 保障しきれない
 lya ʔodthon : 堪えきれない / lya chya : とても信じられない

- (93) kraʔsɛɛ nám lǎj chiaw lya thii cà táan wáj dāj
 流れ 水 流れる 強い 逆らう

: 水流が強くてとても逆らいきれない

H) 一般状況の判断

話題になっている事柄についての情報から、ある考えられる事態を判断する際、waa 以下の述語補文とともに次の言い方がよく現れる。

- (94) náb waa ~ : ~と見なされる / 言える
 hěn waa ~ : ~と見られる / 思われる
 khâad waa ~ : ~ことが予測される
 sǎnnídthaan waa ~ : ~と推察されている

I) その他の可能に準ずる表現

以上のほかにも、他の言語表現を意図しつつ、可能表現が認められるものがいくつか個別的にみられる。次にその例を示す。

- (95) māj jàag chya / māj nâa chya : 信じられない気がする

- (96) cà phōm naj keen thii nâa phōcaj
 増える 程度 はず 満足 : 満足し得る程度に伸びる

- (97) thaa pen khwaamfǎn kō jōm māj mii sǐnraj lya jùu
 もし 夢 はず ある 何も 残る いる

: もし夢だったら何も残らないはずだ

- (98) ród khan níi phlàg kōō léew dyn kōō léew kōō jaj mâj joom
 車 台 この 引く も 押す も まだ
 khâjâb- khâjyan
 動く

: この車は押しても引いても動こうとしない

- (99) mòd riawreəŋ thîi cà soŋ tua jyyn jùu lìg tōō paj
 尽きる 力 維持する 立つ それ以上

: 力つきてそれ以上立っていられなかった

- (100) khroonkaan níi k̄yab mâj phàan thîi pra²chum
 計画 この 殆ど 通る に 会議

: この企画はあやうく会議を通らないところだった (やっと通れた)

- (101) sōnsāj jùu mâj waaj wâa khâw ca maa khâaŋ khyyn thammaj
 不思議 ざるを得ない こと 彼 来る 泊まる 夜 なぜ

: 彼がなぜ宿をとりに来たのか不思議に思えてならなかった

- (102) lōon aaj thîi cà bōōg khwaamciŋ.

: 彼女は本当のことを言うのを恥ずかしがっている

5. おわりに.

以上、タイ語の可能表現について語彙的な側面と構文的な側面とを概観してみたが、個々の用法に関してはさらに検討を要する問題も多い。一つはタイ語においても自動詞そのものが自発と可能の意味をもつものがあり、次の例のように dâj の選択が自由に起こる場合があるという点である。

- (103) bia khâaj dîi kwàa wisakîi r̄ȳy kh ?
 ビール 売る よく より ウイスキー か

: ビールはウイスキーよりもよく売れますか?

— kh. bia khâaj dîi dâj mâag kwàa wisakîi

: はい、ビールはウイスキーよりよく売れます

004) chaníd ee níi cà tídtò càag kaan-kin aahāan thūi māj saʔaad mii
 種類 A この 移る から こと 食べる 食物 清潔 ある

chyarôog níi phôn jùu, sùan chaníd bii cà tídtò dáj càag kaan-mii
 病原菌 この 混じる いる 一方 種類 B 移る から こと ある

phêed-sāmphan kàb phūupùaj
 性 交わる と 病人

: A型(肝炎)は不潔な病原菌の混じっている食物を食べることにより感染する。一方、B型の方はかかっている人との性交により感染する。

また、可能の形式をもたない文も、その話し手に意志の強さによっては、十分に可能の意味に解釈されてよい場合がある。

005) dichán māj hěndūaj thūi phūujĩj tōj thamjaan nōog bāan dūaj
 私 同意する 女性 義務 働く 外 家 ともに

: 私は女性が働きに出ていくことには同意できない

逆に、日本語では自発性が高く、可能の意味を明示しなくてもいいような場合でも、タイ語に訳した場合は dáj を必要とするのが普通である。

006) plaa thūi càb dáj càag thaʔlee : 海でとれる魚

007) tōg plaa dáj lāj tua : 魚がたくさんつれた

008) kháv phimdiid dáj rew : 彼はタイプを打つのが速い(速く打てる)

009) lỳag dáj léew rỹj jaḡ : (選んで) 決まりましたか

010) thām bāan jùu nāj kōo cà sāab dáj thanthii
 聞く 家 ある どこ 知る すぐ

: その家はどこかと聞けばすぐに分る

011) thāa cam rúb phansanthaan khōḡj khonráaj dáj, khōj chūaj
 もし 覚える 姿 容貌 の 犯人 だろう 手伝う
 tamrùad dáj māj
 警察 大いに

: 犯人の容貌を覚えていたなら、大いに警察の役に立っただろう

もう一つは3-4.でふれた複合動詞にみられる動詞の意味的な関係についてである。ある動作の二次的な状況(結果)を表す成分については、方向動詞やその他の動詞のみならず、形容詞も含まれている。これらの要素の意味的な関係、結合の条件を考えていくことによって、特に否定(不可能)の意味の成立条件が明らかになるものと思われる。本稿では記述的な紹介に終わったが、このような造語パターンがどの程度、発達しているのかは、今後の調査・研究にまつところが大きい。

一般に助動詞を使った言い方と比べ、可能補語的な言い方はとくに否定表現において「なぜそれができないのか」という事情を「個別的に」含意するものであった。可能・不可能の状態が発生する大きな要因の一つとして、「～しても」という状況設定が考えられるが、可能補語を用いた否定表現では意図と結果を同時に表し、成立しえない事情を簡潔に述べるという特徴が顕著である。可能・不可能の成立する条件を比べてみた場合、その常態性について考えるならば、言語表現として後者の生じる頻度が高いことは当然指摘されてよい。恐らくはその事実によるものと思われるが、タイ語の可能の慣用表現もまた、否定の形式において多く現れている。^{注) 15}

〈後記〉

本文のローマ字(国際音標文字)表記はMARY R. HASS (1964)にはば従った。例文はタイ語の各種テキストや現代タイ語の小説等から採ったが、訳文のほか語彙機能的な意味も注記した。本稿の資料検討にあたっては元筑波大学大学院地域研究科留学生のスリラック・ダーンワーニッチャクル女史(現コンケン大学人文社会学部外国語学科講師)、その他のタイ人の方々から貴重な助言を得た。記して感謝したい。

<注>

- 1) 寺村 (1982) では、「コノ魚ハ木ニノボレル」のような文を能動的可能表現、「コノ魚ハ食ベラレル」のような文を受動的可能表現と名づける。p.259. 「可能」の意味記述については金子 (1986) などを参照。
- 2) dâj の諸特徴については Nawawan (1970, 1984) などを参照。
- 3) phoo dâj (いける) が khàb ród phoo dâj (まあ運転できる) のように直接動詞に後置される場合もある。
- 4) 助動詞としての dâj は dâaj のように長く発音されるのが一般であるが、動詞に前置される時は、短く弱く発音される。Bancob (1976) p.166 など。
- 5) この dâj は dâj mii ookàad (～の機会を得る) という意味で、特記的な事態について言及するものである。
- 6) この場合、普通 dâj だけで、副詞や文の前後の関係から、強いて léεw (完了の助動詞) などの時制の影響をうける必要は生じない。
- 7) この外、文語的な表現として hãa dâj mâj が不可能の意味を表すことがある。

例： pra²tuu níi hãa pèəd dâj mâj (この戸は開かない)

- 8) 例えば、中国語の他能説中文 (彼は中国語が話せる) では「能」の代わりに「会」を用いてもよいが、他能游一千米 (彼は千米泳げる) の「能」は「会」に置き換えられないという事情と似ている。
- 9) 方向動詞にはこの外、空間または時間における離反と接近を表す pai (～ていく)、maa (～てくる) があるが、ここではあつかわない。
- 10) 以下の「結果補語」が常に肯定・否定の両形式をもつわけではない。例えば、sýy mâj loŋ (買えない) は sýy loŋ とは言えない。また肯定と否定とで意味が変わるものもある。nýg thýŋ (思い出す), nýg mâj thýŋ (想像できない) など。Bancob (1976) p.174.
- 11) 但し、mooŋ hěn mâj dâj のように否定形として用いることはできない。

い。前述の àan òng (読んで分る) も àan òng dâj は可能であるが、
* àan òng mâj dâj は不適格である。こうした現象は同じく中国語の
能读得懂 / *不能读得懂 の成立の是非と極めて類似的である。

- 12) 以下の用例は主として Bunsiri (1988) などによった。
- 13) この分類基準については長嶋 (1976) などを参考にした。
- 14) 同様の指摘は大河内 (1980) にもみえる。しかしその使用基準は明らかではない。例えば、àan mâj òng (読んで分らない) での否定詞移動による * mâj àan òng (*読んで分るようにしない) は非文である。
- 15) 大内田 (1979) では中国語の可能補語も否定形を用いた用例が圧倒的に多いことが報告されている。

<参考文献>

1. Bancob Phanthumetha (1976) “*Laksana Phaasaa Thai*”
Ramkhamhaeng University, Bangkok
2. Nawawan Phanthumetha (1970) “*Kaan Chai Phaasaa*” borisad
kanphim Satrisan camkad, Bangkok
3. — (1984) “*Kaan Chai Phaasaa 2*” samnakphim Aalan,
Bangkok
4. — (1985) “*Wayyaakoon Thai*” rungruengsan kanphim,
Bangkok
5. Nittaya Kanchanawan (1985) “*Arai Ruamkan Pen Kriyaa-Walii
Thai*” warasan Aksonsaat vol. 12 No. 2 Chulalongkorn University,
Bangkok
6. Kanchana Naksakul (1985) “*Phaasaa Thai Wanla Kham*”
samnakphim Chulalongkorn Univesity, Bangkok
7. Bunsiri Suwanaphek (1988) “*Pathaanukrom Waa Duai Kaan Chai*”

- Samnuan Thai*" samnakphim. Odiansator, Bangkok
8. Manit Manitcharoen (1985) "*Phocanaanukrom Thai*"
hanghunsuancamkad. Bamrungsan, Bangkok
 9. MARY R. HASS (1964年初版) "*Thai - English Students Dictionary*"
Stanford University Press
 10. 広州外国語学院主編 (1986) 『泰漢詞典』 泰国南美有限公司・香港商務印書館聯合出版
 11. 松山納編 (1979) 『タイ語重要語句用例集』 インドシナ語学科研究室編 東京外国語大学教育研究協議会
 12. 富田竹二郎 (1987) 『タイ日辞典』 養徳社
 13. 坂本比奈子 (1985) 「タイ語動詞の下位分類について」 *Journal of Asian and Afrikan Studies*. No. 30 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
 14. 大内田三郎 (1979) 「中国語の可能補語について」 『中国語学』 154号 中国語学会
 15. 大河内康憲 (1980) 「中国語の可能表現」 『日本語教育』 41号 日本語教育学会
 16. 長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」 鈴木孝夫編 『日本語講座 4 日本語の語彙と表現』 大修館書店
 17. 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタックスと意味 I』 くろしお出版
 18. 金子尚一 (1986) 「日本語の可能表現〈現代語〉」 『国文学解釈と鑑賞』 1月号 至文堂